

## 音が「意味」するものとは 5

## 『心の共鳴・共振』

文 光吉俊二

text by Shunji Mitsuoyoshi

## 自

律神経由来で、脳の情動活動の影響を音声から分析する

Sensibility Technology (ST) による医療分野での研究が始まりました。

この技術は、東日本大震災において被災地に向いた自衛隊員のストレスを音声から分析した結果が、血液検査、医師の診断と一致し、音声からストレスの有無と濃度を検知できることがわかったのです。

また、急増する被災地の仮設住宅での孤独死対策や自殺予防に有効であると判断され、自治体による対策に使用されようとしています。

この技術は、心の共鳴や共振を定量的に可視化できるため、被災者だけでなく、国籍・年齢・性別に関係なく活用できます。この情報を知って、自殺世界一から日本を下回る数にまで自殺者を減少させたフィンランド政府が、「心の健康医療機器」として「ノキアに継ぐ国家主力戦力技術」として注目し、

導入の準備を始めています。

日本の発明や技術が世界で発展した例として「キャタピラ（帷子から発案）」

「YAGIアンテナ（八木氏の発明）」があります。いずれも第一次世界大戦、第二次世界大戦の技術的背景の主たる要素技術でした。これらは日本の発明であるにもかかわらず、日本人がその真価を理解せずに無視したため、外国によって実用化され、その結果、日本の敗戦につながってしまったという皮肉な歴史があります。

「心のレントゲン」ともいうべき世界初の日本生まれの技術が、今また一足先に外国によって応用されようとしています。

既得権益にしがみつき、前例のない新たな価値を理解しようとしないうる日本の学者や政治家、官僚たちは、無駄な技術に多額の投資を今も続けています。そうしたなかで、このST技術は民間の投資だけで開発を進め、10年の歳月

をかけて実現しました。この事実をしつかりと世間に伝えたく、外国製品になる前にここに記します。

「想定外」を恥も外聞もなく口にする日本の権威たちは、いつになつたら無知よりひどい「心を失くした」状態を自覚するのでしょうか。私は最近のニュースを見て、日本人はもう学者や政治家、官僚などの権威を信用しないなど感じています。



## Profile

日本の情報工学者であり彫刻家。北海道札幌市出身。多摩美術大学美術学部彫刻科卒業。徳島大学大学院工学研究科博士後期課程修了、現在、博士(工学)。元スタンフォード大学バイオリポティクス研究所 Visiting Scientist (客員科学者)。現在、東京大学非常勤講師、株式会社AGI代表取締役である。専門は、ST (Sensibility Technology) 感性制御技術・VER 音声感情認識技術、音声脳神経分析技術。